

水族館月報

No. 143

1964年7月

7月の入場者数

一 般		団 体		有 料 合 計	特 別 観 覧
大 人	小 人	大 人	小 人		
3 3.8 0 9	2.4 1 2	9.8 9 2	9.5 6 0	5 5.6 7 3	9 2 4
前年度比	1 9 6 3		1 9 6 4		増 減
入場者数	5 3.8 9 8		5 5.6 7 3		+ 1.7 7 5

水族館記事

- ◎ 2日 江川のエビ漕ぎ網漁師より、クシバネトゲウミエラ1個体が入槽。No. 3水槽に展示した。夜間は砂上15cmの高さに伸長しているが、昼間は葉状体と幹部を塊状に縮めていることが多い。しかし、ウミサボテンのように、完全に砂中に埋れてしまうことはない。このウミエラには、ウミエラカニダマシが共生しており、7月末現在両種とも元気である。
- ◎ 4日 前夜、南浜で産卵に上陸したアカウミガメ2頭を捕獲、屋外ウミガメプールに収容した。今夏は産卵に来るアカウミガメが例年より多いようで、北浜にも南浜にも数カ所ずつ、産卵の跡が認められる。
- ◎ 8日 活餌用に博物館西側の溜池で蓄養していたヌマエビは、白浜町の防虫対策としてのヘリコプターによる殺虫剤空中撒布のため、全滅してしまつた。前回の薬剤空中撒布の時は、全く被害がなかつたので、何の対策もしていなかつたが、今回は殺虫剤が多量に入つたらしい。
- ◎ 10日 海水取入口のマンホールを清掃し、1m近く堆積していた砂礫をとりのぞいた。この作業のため、開放式水槽は午後の3時間、かなり濁つた。
- ◎ 13日 須磨水族館採集班と協同作業で、海洋観測塔の鉄脚の間にすみついていたツバメウオ(30cm)2個体を採集。同館と1個体ずつ分けた。
- ◎ 17・18日 布施、荒賀両助手、樫山技能員は、京都市新町会館での潜水講

習会を受講、ひき続き行なわれた試験により、潜水士の資格を取得した。

◎ 25日 岡山県笠岡より、カブトガニ6個体が入槽。長途の陸上輸送(列車便)にもかかわらず、元気である。

◎ 27日 〇水槽のハタタテダイにピブリオ症が発生。昨夏須磨水族館で大量の被害を出した魚病と同じ症状(鰭軟条の脱落、体表の部分的潰瘍)なので、細菌検査はしていないが、同館の資料(動・水・誌・才4巻, 才2号, 1964)により、病原性好塩菌によるものと判断した。

今のところ、本病に対しては、特效的な化学薬品がない。抗生物質の乱用は、菌の耐性を強めるおそれがあり、また、閉鎖循環を長く続けて、水質が悪化した場合に発病することが多いので、とりあえず同水槽を開放式にきりかえ、新鮮海水中の自然的治療を期待した。

◎ 7月の動物入手概況

1. 採集作業

日時	採集場所	方法	人員	主な目的動物
4日午後	塔島東磯	SCUBA潜水	2	磯の小型魚類
5 "	海洋観測塔附近	"	3	磯地の小型魚類
11 "	塔島	タイド・プール採集	3	ウミウシ・巻貝類
13 "	海洋観測塔下	SCUBA潜水	2	ツバメウオ
14 "	塔島東暗礁	"	4	トゲトサカ類
22 "	かなとこ周辺	"	2	熱帯性小型魚類
25 終日	四双島	タイド・プール, SCUBA	4	"
26 午後	鳥の巣	磯採集	2	内湾性潮間帯動物
28 "	北浜沖の磯	素もぐり	2	ベラ類
30 "	塔島東暗礁	SCUBA潜水	3	チョウチョウウオ類

今夏は、熱帯性の磯魚がとくに豊富で、潜水採集により、下記の珍種を得た。

主な採集動物名(☆印は1962年4月1日以降はじめての入槽、○印はおそらく紀州沿岸での新記録種)

無脊椎動物：☆ギンカクラゲ、アカトゲトサカ、ピロードトゲトサカ、スナイソギンチャク、トラフシヤコ、☆キイロウミウシ、☆ツツレウミウシ、ヒオウギ、☆ヤタテガイ、☆コンダカサザエ、アオスジクモヒトデ、トツクリガンガゼモドキ。

魚類：アオヤガラ、☆○ヤライイシモチ、☆ウイゴンベイ、ソラスズメダイ、☆○モンツキベラ、☆○キツネベラ、☆ヤマブキベラ、☆オトメベラ、ツユベラ、☆○シチセムスメベラ、ツバメウオ、チョウハン、☆ミナミハタタテダイ、☆レモンハギ、シマハギ、☆メガネハギ、アオサハギ、☆ハシナガウバウオ、☆○スイ。

爬虫類：アカウミガメ

2. 購入

盛夏に入ったので、雑賀崎一本釣漁師からの入槽は、かなり減じ、江川エビ漕ぎ網漁師からの購入が主であつた。また、熱帯魚商より沖縄産のコーラルフィッシュを若干購入。

主な購入動物名

無脊椎動物：☆クシバネトゲウミエラ、カブトガニ、☆ウミエラカニダマン、☆タテジマヨコバサミ、☆アミメキンセンガニ、アシナガツノガニ、ジャノメガザミ、☆アリソガイ、☆ヤカタガイ、☆ホネガイ、ウズラミヤシロ、☆スナヒトデ、☆アカオニガゼ。

魚類：オキエソ、ゴテンアナゴ、ハナアナゴ、ヤマトカマス、☆マトイシモチ、キス、☆ダイミヨウサギ、イトヨリダイ、イトタマガシラ、☆ホシテンス、アオブダイ、フエヤツコダイ、☆ナンヨウハギ、ダルマオコゼ、イネゴチ、イザリウオ。

◎ 飼育概況

高水温のため、単独循環濾過水槽の水質低下が著しく、C・H両水槽ではPHが7.3となつた。C水槽にはピブリオ症が出たので、月末より、新鮮海水の換水を頻繁に実施することにした。白点病の被害はわずかであつた。エビ漕ぎ網による底生動物の入槽が増したため、無脊椎動物のコレクションは246種になり、これまでの記録を更新した。

7月31日現在、飼育中の動物は、総計486種 3873個体以上で、その内訳は次の通り。このうち、観覧水槽に飼育・展示中の動物は459種 3520個体以上。

カイメン類	2種	9個体	ゴカイ類	6種	17個体	イカ類	一種	一個体
ヒドロ虫類	2"	8"	カブトガニ類	1"	8"	タコ類	2"	2"
ハチクラケ類	—"	—"	フジツボ類 カメノデ	3"	24"	ウミシダ類	4"	18"
ウミトサカ類	7"	24"	エビ類	13"	159"	ヒトデ類	9"	181"
ヤギ類	6"	57"	シヤコ類	3"	4"	クモヒトデ類	4"	11"
ウミエラ類	2"	6"	ヤドカリ類	9"	80"	ウニ類	17"	174"
イソギン チャク類	6"	44"	カニ類	49"	272"	ナマコ類	6"	48"
イシサンゴ類	9"	42"	アメフラシ類	8"	13"	ホヤ類	3"	8"
ツノサンゴ類	1"	1"	二枚貝類	24"	399"	軟骨魚類	6"	44"
ハナギン チャク類	1"	12"	巻貝類	48"	662"	硬骨魚類	230"	1533"
ホウキムシ類	—"	—"	ヒザラガイ類	2"	4"	カメ類	3"	17"

7月の気象（午前9時観測）

才1水槽室（水温・比重は№24水槽）

	上旬	中旬	下旬
晴天日数：28	10	9	9
室温（°C）	$\frac{24.3 \sim 27.0}{26.1}$	$\frac{25.2 \sim 27.5}{26.8}$	$\frac{25.3 \sim 28.3}{27.2}$
水温（°C）	$\frac{23.80 \sim 26.00}{25.07}$	$\frac{25.50 \sim 27.04}{26.17}$	$\frac{25.30 \sim 27.63}{26.67}$
比重（15°C）	$\frac{23.92 \sim 24.72}{24.43}$	$\frac{24.46 \sim 24.99}{24.78}$	$\frac{23.53 \sim 25.26}{24.63}$

才3水槽室（水温）

H水槽（°C）	$\frac{24.5 \sim 26.4}{25.8}$	$\frac{27.0 \sim 28.0}{27.6}$	$\frac{26.8 \sim 28.3}{27.5}$
T-8水槽（°C）	$\frac{24.3 \sim 26.0}{25.5}$	$\frac{25.9 \sim 27.1}{26.5}$	$\frac{24.9 \sim 27.8}{27.0}$

海水取入口

水温（°C）	$\frac{24.86 \sim 26.30}{25.60}$	$\frac{25.83 \sim 27.36}{26.44}$	$\frac{25.80 \sim 28.06}{27.27}$
比重（15°C）	$\frac{24.09 \sim 25.15}{24.81}$	$\frac{24.74 \sim 25.40}{25.04}$	$\frac{24.17 \sim 25.28}{24.81}$

昭和39年8月15日 (No. 143)

編集兼発行者 市 川 衛

発行所 京都大学瀬戸臨海実験所

和歌山県西牟婁郡白浜町

電話 (白浜) 2047. 3515